平成２４年度知床五湖利用調整地区制度の総括

１．知床五湖園地利用者数（参考資料１、２、５）

開園から 10 月 20 日まで利用調整地区制度期間の知床五湖地上遊歩道の立入認定者数は 45,234 名（昨年比 24%減）であった。駐車場利用から推計する知床五湖園地入込概数は５月～10 月 383,031 名（昨年比 11.1%増）であった。

１）ヒグマ活動期（５月 10 日～７月 31 日）知床五湖園地利用者数

地上遊歩道においては、５月 10 日～７月 31 日の間に、登録引率者のツアーとして、1,105 ツアー（昨年度 910 組）、登録引率者を含む利用者は 8,656 名（昨年度 6,519 名）であった。登録引率者を除くツアー参加者は 7,551 名と昨年比 34.6%増（昨年度 5,609 名）となった。

ツアー参加者の増加要因は、知床ガイド協議会による当日現地受付窓口の設置や企画型旅行商品での地上遊歩道が活用されたこと等が考えられる。

なお、同時期の高架木道の利用者は利用者カウンターによる計測値（／補足率）で 126,903 名（昨年同期 116,603 名（8.8%増））の利用があり平成 18 年の高架木道供用開始以降最多の利用者数を記録した。

知床五湖駐車場の利用台数から算出した知床五湖の園地の入込概数は、５月が 30,527 名（昨年比 16.0%増）、６月が 53,011 名（昨年比 21.9%増）、７月が 74,000 名（昨年比 18.6%増）となっている。乗用車利用が増えており、7 月 8 月では過去 5 年間での最多となっている。

２）植生保護期（開園～５月９日、８月１日～10 月 20 日）知床五湖園地利用者数

開園（４月 20 日）から５月９日が平成 24 年より新たに利用調整地区植生保護期の期間となり、20 日間に立入認定による地上遊歩道利用を 1,615 組 3,820 名が利用した。

融雪後歩道状況を確認し５月７日に大ループの利用を可とし、３日間で 142 名が春の植生保護期の大ループを利用した（小ループは４月 20 日～５月９日で 3,678 名利用）。

植生保護期の夏期８月１日～10 月 20 日の地上遊歩道利用者は、11,059 組、32,758 名と昨年比 38%減（昨年度 53,072 名）となった。

立入認定による地上遊歩道立入者の減少は、地上遊歩道閉鎖が連続した８月の利用者減が主な要因（平成 23 年 29,925 名→平成 24 年 8,291 名（72.3%減））。

期間を通しての全利用者数は昨年比で減となったが、９月,10 月では団体利用者の地上遊歩道選択率がそれぞれ９月（７％→９％）、10 月（８％→10％）と増加し、地上遊歩道散策を旅行ツアーで行うケースが増えていると思われる。

なお、8 月 1 日～10 月 20 日の高架木道の利用者は利用者カウンターによる計測値（／補足率）で 161,794 名（昨年同期 133,334 名（21.3%増））の利用があり平成 18 年の高架木道供用開始以降最多の利用者数を記録した。特に、８月の高架木道利用者は 76,682 名と昨年比 61.8%増となり、今夏、知床国立公園内外でヒグマが活発に行動する状況下においても、安全且つ安定的な園地の利用機会を提供できた。

知床五湖駐車場の利用台数から算出した知床五湖の園地の入込概数は、８月が 83,941 名（昨年比 6.7%増）、９月が 78,946 名（昨年とほぼ同数）、10 月が 62,606 名（昨年比 13.6%増）となっている。

２．知床五湖園地ヒグマ遭遇状況（参考資料１、３、４）

１）ヒグマ活動期における地上遊歩道利用者のヒグマ目撃数

ヒグマ活動期の地上遊歩道において、83 日間で計 59 回のヒグマとの遭遇があり（昨年度 27 回）、うち 39 回で中止判断がなされた（昨年度 24 回）。遭遇回数は、５月１回、６月 14 回、７月 44 回と、７月の遭遇が多かった。すべての遭遇において事故なく無事に利用者は帰還できた。再利用券発行は平成 23 年度の 276 枚に対して平成 24 年度は 439 枚となった。

２）植生保護期における地上遊歩道の開閉状況

植生保護期春期の開園（４月 20 日）から５月９日では、悪天候による途中閉鎖１回、ヒグマ目撃による地上遊歩道の一時閉鎖１回があった。

植生保護期夏期の８月１日～10 月 20 日では、終日閉鎖 19 日（昨年０日）、一時閉鎖（緊急閉鎖又は途中再開）が 32 日あった（昨年８日）。

６月～９月上旬まで複数のヒグマが知床五湖周辺で確認された。植生保護期においては地上遊歩道での目撃、地上遊歩道近くでの目視があれば地上遊歩道を閉鎖し、現地調査を実施の上、ヒグマの定着状況を確認しながら遊歩道の開閉判断を行った。

３）高架木道からのヒグマ目撃情報

今夏、７月 27 日間、８月 20 日間など計 66 日で高架木道からのヒグマの目撃情報があった。高架木道沿いをヒグマが歩いたり、高架木道をくぐり移動するケースも見られた。駐車場へ接近したケースで追い払いを実施した。

３．利用者サービス向上のための各種取組・試み

１）知床ガイド協議会による当日案内カウンター

知床ガイド協議会により、知床五湖フィールドハウスにて登録引率者のツアーに対する当日案内カウンターを設置した。

ヒグマ活動期の５月 10 日～７月 31 日の期間中、全ツアー参加者の 15%にあたる 1,144 名に対し当日ツアー参加を案内することができた。

期間を通して知床ガイド協議会スタッフが毎日 1 名ずつ知床五湖フィールドハウスにて当日案内を行う体制がとれたこと、知床ガイド協議会所属の登録引率者がフィールドハウスでの待機時間を活用して臨時的にスタッフ役を担い制度説明等を行ったことなどから、利用者案内や管内展示の充実をより図ることができた。

２）知床五湖ホームページでの情報提供

平成 24 年度より知床五湖ホームページ（www.goko.go.jp/）の構成を刷新した。スマートフォン対応のページも新たに整備し、旅行中での情報入手もしやすいよう改良を行った。

ヒグマ活動期の案内については、登録引率者の紹介をガイド事業者単位から個々の登録引率者単位の紹介へ変更し、個々の登録引率者の特徴・魅力を伝えるとともに、引率を受けた利用者からの声をフィードバックさせることを目的としたツアーの感想投稿機能を加えた。

植生保護期においては、地上遊歩道の閉鎖・再開が頻繁に生じたことから、ホームページのトップページに一目で地上遊歩道の開閉状況がわかる表示を追加し、リアルタイムな情報提供をできるよう改良した。

３）知床五湖利用調整地区制度ヒグマ活動期増枠実験の実施

ヒグマ活動期においては同時滞在が８枠と限定されており、団体対応、プライベートガイド対応、利用再開時対応において十分な利用者サービスを提供できていないとの指摘があったことから、登録引率者審査部会の議論を得て、制度周知キャンペーンを兼ねた増枠実験を６月 24 日～26 日に実施した。

実験においては、地域からボランティア参加者を募り一時的に同時滞在 12 枠の状況を作り、フィールドハウスの運用状況や登録引率者の運行間隔等の記録を行い、実験期間に参加した利用者に対してはアンケート調査を実施し、安心感、静寂感、混雑感などについての意識調査を実施した。

実験終了後７月 12 日にフィールドハウススタッフ、知床ガイド協議会スタッフによる実験振り返り、10 月 24 日に登録引率者との実験振り返りを行い、実施感想や課題整理とりまとめを行った。

知床五湖フィールドハウスでヒグマの痕跡情報・遭遇情報のとりまとめを行う本部スタッフで一部対応が滞る状況が見られた他は、引率者・利用者とも増枠実験時と通常時での安全性、利用感に関する課題が見られなかった。

今後、順応的な管理を行う上での検証可能な情報を集めるため、一般ツアー参加者による増枠を一定期間行い、実証をしていく必要があり、現在新たな実験方法について登録引率者審査部会にて検討を予定している。

４）パトロールの実施

６月～９月中旬に複数のヒグマが知床五湖周辺で確認され、活発な活動が見られたことから、地上遊歩道、高架木道でのパトロール・監視活動を行った。

高架木道に近い位置でヒグマが確認された場合や植生保護期において地上遊歩道の接続部にヒグマが近づく状況が予想される場合において、環境省、自然公園財団、知床財団スタッフが高架木道よりヒグマの行動監視をおこなった。また、高架木道利用者に向けて他の利用者の通路をあけること、騒がないこと、エサやりをしないことといった利用マナーの啓発を行った。

８月以降の植生保護期においては、地上遊歩道利用の再開判断を行うため、地上遊歩道のパトロールを実施した。基本的に閉鎖後又は閉鎖翌日朝にパトロールを行い、パトロールで得た情報より管理者が開閉判断を行い FAX にて関係者に通知を行った。また、ヒグマ痕跡等の情報はホームページにてヒグマ情報として発表した。

９月からは、高頻度目撃箇所へのセンサーカメラの設置を行う等、ヒグマの行動把握に努めた。